

名はウツカリ でも味はシツカリ

ウツカリカサゴ【フサカサゴ科】

何とも変わった名前の魚です。カサゴと酷似し、明確な違いを見分けるのが難しいです。生息域は50m以深でやや深め、茶褐色のカサゴに比べ赤みが強く、体表の白斑紋がはっきりして黒く縁取られているものが多いです。カサゴの間はとにかく種類が多く、皆さんご存知のオニカサゴ(イズカサゴ)・フサカサゴ・アヤマカサゴなどは胸鰭軟条の数や色目、生息域などである程度区別できますが、帰港後クーラーのカサゴを見てはいつも「何かサゴだろう」と話題になりますね。

ウツカリカサゴは以前日本の魚類研究者の間では、水深による生息環境の違いによって体色と斑紋が違うのだとされ、誰も疑問に思いませんでした。ところが1978年、ロシア(当時はソ連)の学術誌にそれまで深所赤色型とされていたものがカサゴから分離され、新種として記載されました。これが日本のマスコミに取り上げられ、当時魚類学の第一人者だった阿部宗明博士にテレビ局の記者がインタビューで「日本の名前は何か」と質問したところ、「うっかりするとカサゴと区別しないことがあります。また日本の研究者がうっかりしていたのでウツカリカサゴと名付けました。」と答えたのが名前の由来です。何とも気の毒な名前ですが味は一級、大きくなって大味ではなく、旨みとボリュームのある身は刺身・鍋・みそ汁でいただきたいですね。



今月のおススメ釣魚

【7月休日の潮回り】城ヶ島

7日(日)大 10:11干潮(11) 17:10満潮(150)
14日(日)小 8:12満潮(132) 14:22干潮(57)
15日(月)小 9:17満潮(121) 15:03干潮(72)
21日(日)大 9:44干潮(17) 16:45満潮(146)
28日(日)中 7:39満潮(140) 13:48干潮(53)

【こんな魚が釣れてます】

アオリイカが産卵期をむかえ浅瀬に集まるようになりました。型も大きく、写真は1.5キロオーバーです。ブリやヒラマサがサバの群れを追いかけています。写真は見事なヒラマサ。



安全航行しましょう!!

- 始業点検(ガソリン・主機・補機・船体・アンカー)
- 常備品(人数分ライフジャケット・信号紅炎・携帯電話・救命浮環・オール・ラジオ)
- 湾内徐行・漁網避難航行・天候注意・水上バイク注意・釣糸注意

今月のギャラリー



普段は赤くないアカヒメジ



防波堤先端からダイブ

海の生物ワンポイント

アカヒメジ【ヒメジ科】

白銀ボディに黄色の縦ジマ1本、どこがアカヒメジなんだと思われませんが、夜または死ぬと赤くなります。他のヒメジのように海底を這いずり回らず、中層を優雅に群れます。味は一級で、天ぷらや湯引きした霜皮造りがおススメです。

トピックス

7月上旬、秋谷の夏祭りが行われます。日中に町内を巡行した大人神輿、女神輿、子供神輿など様々な神輿が夕方海岸に集結するとハイライトが始まります。神木神輿を担いだ若い衆が漁港防波堤先端から海に飛び込み浜まで泳ぐのです。他の神輿も海に入って祭りは最高潮に達します。

メンテナンスしましょう

帰港後に艇を洗うのは皆さん実施されておりますが、船外機に関して意外に忘れられがちなのがチルトモーターの洗浄。チルトダウンした状態で船外機を洗ってそのまま放置しておくと塩分が充分落ちていないモーターが腐食し、やがて水が浸入し破損します。チルトモーターは高価な上に交換が大変なので、チルトアップして洗浄を心がけましょう。船内外機に関しては、エンジンの冷却は専用の冷却水(LLC)で行っておりますが、その冷却水を海水循環で冷やしているため、帰港後は海水水路の洗浄が必須です。冷却水の点検はリザーブタンクの半分ほどの液レベルでOKです。入れ過ぎ(満タンはNG)に注意しましょう。

指定管理者からのお知らせ

7・8月の施設営業のご案内

お待たせいたしました、真夏の到来です。回遊魚や大物釣りはもちろん、ウェイクボード、ロングクルージングなど海遊びもいろいろ。帰港後も海水浴や磯遊びを楽しみましょう。遊んだ後はシャワーでさっぱりできます。熱中症対策はこまめな水分補給が一番、管理事務所にウォーターサーバーがありますのでご利用下さい。施設は無休で頑張りますので、ぜひともご来場下さい。

お問い合わせは ☎ **0120-560982** (コールアカヤ)

今月の事故

接触等	0	件
主エンジン停止	0	件
ガス欠	0	件